

令和3年度 園評価 自己評価書(一覧)

評価基準 A—80%以上(良い) B—60～80%未満(まあまあ良い) C—40～60%未満(あまり良くない) D—40%未満(良くない)

園学校名 安田さくら園

経営理念	＜目指す園の姿＞ ・子どもにとって楽しいと感じる園 ・保護者にとって子育ての拠り所となる園 ・職員にとって子どもの成長の為に協同する園 ＜目指す子ども像＞ ・意欲を持って行動する子ども ・豊かな心を持った子ども ・健康でたくましい子ども(基本的な生活習慣を身につけた子)
------	--

項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	○主体的に様々な環境に好奇心や探究心を持ち関わる力の育成	○子どもの主体的な遊びを保障する保育、教育の実施 ・教材研究を月に1回程度は行い環境構成する ・発達過程や育ちなど幼児理解に基づいた保育、教育の実施をする ・子どもの育ちを繋げていくための資料となる日々の記録をとる ・一人一人の子どもの育ちや特性に合わせた指導法の工夫をする ○課題に積極的に取り組み相互啓発する職員の資質向上を図る ・園内研究、研修を計画的に行い研究課題に向かって研究保育の実践をする ・研修での学びを全職員で共有する	○保育の質向上の為に園内研修と教材研究を行うことが重要であることは全職員が理解している。教材研究については月1回のペースで準備した保育者が多いが子どもが遊び込めることができなかった。又、積極的に園内研修をしようとする姿勢が見られなかった。 ○研修は自ら選択し受講できた。又、コロナ禍の為、リモートになった研修は受講希望者だけでなく多くの職員が学ぶことができた。 ○日々の記録をとり生かそうとはしているが、ポイントを押さえた明日の保育につながる記録になっていない。	B	・園内研修(全クラス)と教材研究を年間行事に組み込み課題解決を行っていく。 ・研修は自己の課題解決のための研修を選択し資質向上を図る。 ・日々の記録のとり方の研修を受講し、子ども理解や明日の保育に生かしていく。	園での遊びを通して子どもが主体的に学べるような取り組みをしていることがわかった。先生方も、保育の質の向上をめざして教材研究、園内研修を継続し、活動のねらいや活動内容を見直しながら取り組んでほしい。	B
	○話を聞く力と言葉で表現する力の育成	○聞く力をつける ・話を聞く事に関わる様々な体験を積み重ねる(対話、会話) 対話の大切さを家庭に働きかける ○自分の思いや考えを言葉で表現する楽しさが味わえるよう年齢に応じた言葉の発達を促す取り組みの実践をする ・言葉遊びを取り入れる ○絵本好きの子どもにする取り組み ・園での取り組み、親子読書の推進(貸出絵本)	○各年齢で聞く話す取り組みを作成したことで、改めて、どのような関わり方が必要かを考え意識して取り組むことができた。しかし話を聞くことや表現が豊かになった子どもが増えたわけではないので継続することが必要。 ○日々の読み聞かせや絵本に親しめる環境づくりをしてきたことで、絵本好きの子どもは多くなっている。家庭での読み聞かせは個別懇談会やお便りで推進してきたことで、週1回の貸し出し絵本を時々読む家庭が増えてきた。	B	・引き続き、聞く話す取り組みを長期的に行っていく。 ・視覚支援などを行いながら話し手の方を見ることができるよう子どもに応じて支援をしていく。 ・絵本の読み聞かせで培われるものを保護者に伝える力をつける。また園での子どもの姿や好きな絵本を知らせ保護者に読み聞かせを意識してもらうようにする。	本への興味をもたせる大切な時期であるため、家庭への啓発も継続して取り組んでほしい。年長児が本の紹介を行っていることは、よい取組であるので継続してほしい。	B
徳	○豊かな心と人と関わる力の育成	○豊かな心情の育成 ・自然体験、飼育・栽培活動など心動かされる体験ができるようにする ・絵本の読み聞かせをしイメージの世界を広げる ○道徳性の基礎の育成 ・色々な人と交流できる場作りー自己発揮と自己統制 ・一人一人が集団の中で認められ、良さや特徴が生かされるクラス作りをする	○コロナ禍のため自然体験や様々な人との交流の場が制限されたが、できる形での体験を考え実践することができた。 ○保育者が日々の中で褒めたり認めたりする保育を心がけたり、4、5歳児クラスでは互いの良さを認める場作りをしてきたことで自信を持つ子どもが増えてきた。しかし、自己発揮できていない子どもの姿もある。 ○して良い事、悪い事やきまりの大切さについて知らせているが難しい子どもの姿が見られる。	B	・引き続き、子どもを肯定的に捉えありのままの姿を受け止め、自己発揮できるようにする。 ・葛藤体験を大事にし自己統制ができるように年齢に応じた関わり行っていく。 また家庭との連携を図りながら園と家庭とが同じ方向で子どもへの関わり方が出来るようにしていく。保護者に伝える力をつける。	して良い事、悪い事やきまりの大切さについて理解が難しい子どもの姿、家庭の姿があることが分かった。家庭への対応、働きかけがとても大切なので、子ども、家庭に寄り添いながら継続して取り組んでいってほしい。	B
体	○健康な心と体の育成	○生活リズム、基本的生活習慣の定着 ・アンケート調査を年5回実施し、できる方法を通信で知らせる ・幼児に保健師による話(早寝早起きの大切さ)をすることで園児自身が意識できるようにする ・園生活の中での取り組みを行う	○生活実態調査を年4回行い意識化したり、できる方法や保護者からの回答をお便りで知らせてきたりしたことで一時的に取り組もうとする家庭もあったが継続できず定着することは難しい。 ○幼児組では子どもが意識できるように保健師による話や紙芝居・絵本を利用して伝えていったことで、変化した子どもの姿がある。	B	・引き続き、生活実態調査を行い意識づけしていく。家庭背景を考慮し具体的な方法を知らせるなど継続的に取り組む。 ・幼児には生活リズム、生活習慣の大切な理由を知らせ幼児自身が考える場作りをする。	今行っている取組を継続し、基本的生活習慣の定着に向けて家庭への啓発を行ってほしい。	B
		○健康な体作りー体を使った遊びが好きな子どもにする取組み ・発達に応じた運動遊びや活動の計画と実施をする ・体幹の育ちに繋がる運動遊びを取り入れる。 ・食育の推進ー夏野菜栽培、保健師による話(3、4、5歳児)	○年齢別運動遊び表を活用する事で、色々な遊びに取り組むことができ、運動遊びが好きな子どもが増えてきている。 ○栽培、収穫体験や保健師による食物の話など食育活動を行ってきたことで、食物に関心を持つ子どもは多くなった。	A	・引き続き、運動遊び表を活用し色々な運動遊びができるように設定していく。また運動遊びの講師を招聘し3、4、5歳児を対象に年5回行う。	運動への興味をもたせる大切な時期であるため、うまくいけば後々へ良い方で影響してくると思う。食育も含め、取組を継続してほしい。	A

横断	○就学前教育の充実	○特別支援教育の充実 ・個別の指導計画を作成し専門機関との連携を図っていく(ぶらんど、巡回相談) ○小学校への円滑な接続を行う為に接続期カリキュラムの見直しをする ○親育ち支援の充実 ・家庭支援記録をとり全職員で共有し、より良い方法を探る	○巡回相談、中芸広域連合での相談などを行ってきたことで、子どもの支援方法などを知り生かすことができた。しかし、ぶらうらんどとの連携した取り組みができず早い対応ができなかった。 ○気になる家庭については、職員で共有し支援方法を考え、それぞれの役割に応じて行ってきたが難しい家庭がある。	B	・ぶらうらんどとの連携、巡回相談を受け、子どもの育ち、支援方法を把握した教育保育をする。 ・5 歳児の園内研修に小学校教職員に参加してもらい、幼児教育を知ってもらう機会を作る。 ・引き続き、家庭支援の記録と計画を立て職員で連携、情報共有し長期的に取り組んでいく。	ぶらうらんどとの連携は継続して取り組んでほしい。また、関係機関と連携を密にしながら、小学校への円滑な接続と、家庭支援に継続して取り組んでほしい。	B
	○防災を中心とした安全教育、安全管理の充実	○あらゆる場面を想定しての避難訓練の実施をする ○月1回、施設の安全点検の実施をする	○年度後半からは色々な場面を想定した訓練や突発的に行ったことで、その時々に応じた対応の仕方を考える場となった。また幼児組では紙芝居などを通して子ども自身が考える場作りとなった。	A	・色々な場面での災害シミュレーションを頭に置き行動に移せるようにする。 ・その都度、反省評価を行い、よりよい方策を考えていく。	防災を中心に取組をよくしてくれていると思うので、今後も継続をお願いしたい。	A